

「カウントダウン芸術祭」

(第二回)

二十世紀最後の今年、経済界の「巨人」大塚正士氏が死去した。県民栄誉賞が贈られた氏は、

徳島の経済・医療・文化・

スポーツの発展に大き

く貢献。「裏地の経

済があればこそ表地

の文化が育つ」と、

経済と文化の表裏

一体を唱えた。その

集大成として、創

業の地・鳴門には

大塚国際美術館

が完成。ギャラリー

のコンテンツとスケ

ールに度肝を抜かれ

た人も少なくないだ

ろう。

本四架橋、エックスハ

イウエイの開通、淡路花

博の波及効果と、最近徳島

にとって明るい話題が続いている。

これを機に徳島から文化を全

国に発信したい。心も身体も元

気になる阿波踊り。鳴門ドイッ

館には、ベートーベンの第九交響

健康のススメ

板東 浩

曲が初演された板東俘虜收容所の資料が多数。また、フラメンコで文化庁芸術祭賞を授与された阿波特使の小島章司氏、世界の桧舞台で絶賛されたジャズバンドの林郁夫氏など、国際的な芸術家も輩出している。

が、その故郷としての徳島を意識している人は、案外少ないのではなからうか。

この文化を次の世紀に伝え、後輩を育てる土壌を作るために、ひとつ提案したい。百年に一度の今年の大晦日。

二十一世紀へのカウントダウンに向けてオペラ、演劇、バレエ、タップダンスなど、踊る人も観る人も楽しめるフェスティバル「二十一世紀への徳島芸術祭」を企画してはどうだろうか？もちろん

トリーは阿波踊り。参加者全員で二十一世紀に踊り込む、なんていかがかな？

(徳島大学附属病院内科医師)